押仲
大橋町会長題字

押上一丁目仲町会広報部
編集責任者　五月女　稔
第七十九号
平成三十一年一月三十一日

【会長のご挨拶】

押上一丁目仲町会
町会長　大橋由明

明けましておめでとうございます。

町会の皆様方には、新しい年を迎えられて良いお正月を過ごされたことと思います。

昨年中は、飛木稲荷神社の「大祭行事」で大変なご苦労やご奉仕、また、年末の「歳末特別警戒」には、寒中の中、町内巡視を賜り、また、役員の方々には種々町会行事に携わっていただき本当に感謝申し上げます。

東京スカイツリーおよび東武スカイツリータウンソラマチの開業五周年を迎えて、予想以上に多数の来場者が全国からお見えになり、大盛況で大変おめでたいことです。地元町会といたしましてもご同慶に堪えません。

今年は、本所北部連合町会様との「合同防火防災訓練」が、開催予定です。

飛木稲荷神社では「例祭」の年にあたり、その期間が九月十三（金）～九月十五（日）で「町会神輿町内渡御」等の行事がたくさんありますので、その切には、皆様のご協力のほど宜しくお願いいたします。

本年も会員の皆様の一層のご協力とご理解を賜わりまして、町会運営を楽しくやりたいのでよろしくお願い申し上げます。

賀詞交換会の集合写真

【茶話会・豚汁会】

民生委員　多賀　康之

民生委員は、町内に住んでいる、お年寄りで一人住まいの方、障がい者の方など要支援者の個人情報を預かっております。地震や水害など有事の際に民生委員一人ではすべての要支援者の助けをすることはできませんので、要支援者の名簿を町会役員に配って良いか尋ねたところが、今回の会の発端でした。有事の際には近所の助け合いが必要であり、日ごろから集まる機会を持っていることにより仲間意識が芽生え、お互いに助け合うことができるということです。関西大震災の時には三割の方が近所の人に助けてもらったというデータもあります。また、家に閉じこもらず外出することで認知症になりにくくなる、大人数で食事を取ることでおいしく感じるといった統計が出ています。まさに、一石二鳥から三鳥のメリットがあります。

こうめ高齢者支援総合センター、こうめ高齢者みまもり相談室、理学療法士の先生、作業療法士の先生の協力を得て、まずは集まれる場所を探す会を開催しました。町会会館の二階は階段が急で怖いという意見があったからです。六月二十七日にまち歩き会を計画し、多賀さんのビルの一階の茶室、細川さんのビルの地下一階、秋元さんの家の裏の空き部屋、高畠さんの家のガレージなどを見学させていただきました。

町会会館の一階はトイレがないと問題があったのですが、向いのキタザワさんのトイレを貸していただく承諾を得て、最初の茶話会は、町会会館の一階で開催することにしました。今年から、OST（押仲すこやかチーム）の活動をしなくなったこともあり、OSTの方を対象に「OSTがなくなってしまい寂しいですね。今度集まって茶話会をしませんか?」という旨の回覧を回して、十月三日に茶話会を開催し、十八名の方が集まりました。お茶とお菓子だけの準備でしたが、近況を報告しあい、作業療法士の方の指導による顔の体操、奥山さんが持ってきていただいたBGMのCDに合わせて合唱まで飛び出し、「今後も継続してほしい。歌の歌詞があるとうれしい。」という意見が出て、二ヶ月後の豚汁会を約束してお開きとなりました。

町会会館にて茶話会

【婦人会】

齋藤　祐子

迎春　昨年は皆様の協力のもと、無事一年過ごせました。感謝申し上げます。本年も宜しくお願い致します。

婦人会では、一月三十日 押上 朴仙で新年会を致します。多数出席頂きますよう宜しくお願い致します。一月二十日は大寒、これから立春までが一年で、一番寒い時期になります。皆様お身体をご自愛下さいませ。そして今年も、婦人会頑張って参りましょう。宜しくお願い致します。

次号に続く

【防火防災部】

小杉　誠一

昨年十一月十一日当町会内にて防災訓練を行いました。今回は押上一丁目町会との　合同防災訓練です。仲町会からは三十人の参加があり大いに盛り上がりました。

今年は本所北部連合の合同防災訓練です。是非多数の参加を期待しています。皆様よろしくお願いします。

スタンンドパイプの訓練

消防隊員の方々がAEDの使用方法ならびに人工呼吸の方法について説明を行い、町会会員も訓練を行いました。

マコトマンション前で防災訓練に参加して頂きました町会会員

【押上界隈の歴史あれこれ】
一八、曳舟川通り（三）

横井　正男

今回も「曳舟川通り」の歴史についてご紹介させて頂きます。いささか長くなり恐縮ですが、私は、「曳舟川通り」が「墨田北部地区の南北を貫く唯一最古の幹線道路」であったこと、そして「すみだ」の発展を支えてきたと考えています。よって引き続きお付き合い下さいます様お願い致します。

明治四三（一九一〇）年の大水害により明治政府は荒川放水路を造りました。このことは「押仲七二号」（平成二九年三月発行）でご紹介した通りです。これにより、曳舟川は葛飾区側と分断され、流れが無くなってしまいました。水の淀みと相俟（あいま）って沿岸の家庭用排水、工場からの工業用排水等により、川は程なく「どぶ川」と化してしまいました。

次の写真1昭和二〇（一九四五）年頃の鶴土手橋（ロイヤル・イトーヨーカドー角の交差点）から撮影した写真です（墨田の今昔より）。右側の建物は資生堂東京工場（京島一―三八）で戦災での焼失は免れました。現在の曳舟文化センターが建つ一角です。

写真1

太平洋戦争末期の空襲により、沿岸の建物の多くは焼失し、住民は疎開していました。また、多くの工場も被害に遭い一時閉鎖しました。いずれからも排水が無かったため、一時的に、曳舟川の水は川底まで見えるほど澄んでいました。

その後、疎開していた人々が戻り、焼失した家を順次再建し生活が始まります。また、工場も生産活動が再開されると、曳舟川は瞬く間に元の「どぶ川」に戻りました。

東京都は昭和二九（一九五四）年、曳舟川の河川機能廃止を決定しました。翌年の昭和三〇年に川は旧本所区の八反目橋（向島一・押上二）～地蔵橋（高木神社入口）間が先に下水を暗渠化し埋立てられました。

次の写真2は旧向島区の地蔵橋（高木神社入口交差点）～鶴土手橋間の埋立工事中の様子です（松本弘氏撮影）。地蔵橋上からの上流（北方）の眺めです。

写真2

正面奥は東武伊勢崎線のガードとその左右は踏切です。踏切の左手奥に見える跨線橋が曳舟駅です。川の右岸には埋設する大きな下水管や工事用資材が並んでいます。

川の左岸は道幅が広く、江戸時代には「四ツ木街道」とも呼ばれていた主要道路でした。

昭和二七（一九五二）年、荒川放水路に新四ツ木橋が完成すると、向島地区を南北に走る国道「水戸街道」が主役になり、曳舟川通りはそのう回路になります。

次の写真3は曳舟川下流言問通りとの交差点付近の埋立直後の昭和三〇（一九五五）年頃の様子（「墨田の今昔」より）です。

写真3

右側の建物は旧言問警察署（押上二―二）です。現在は都営住宅が建っています。左側の屋根は薬師湯（向島三―四六）です。

道路の中央部分（川だった部分）はまだ未整地で、車は通っていません。道路中央の先に見える三階建ての建物は、関東大震災後に被災者家族のために建てられた最初に建てられた鉄筋コンクリート造り集合住宅の中之郷同潤会アパート（押上二―一二）です。現在は、二階が「女性センター」が入っている「セトル中之郷ビル」になっています。

道路左側の従来からの主要道路土手道も未舗装です。数少ない車が通った後は、砂ほこりが舞い上がりました。雨が降ると一面ぬかるんで水溜りができていましたが、まもなく舗装工事が行われました。電柱もまだ完備されていません。

次の写真4は、写真3よりやや上流（北）ですが、ほぼ同じ場所で整地後の様子です。両側は家屋も更に建ち、自動車が徐々に普及し始め交通量も増えてくると、当時、この辺りでは珍しい横断歩道が敷かれました（「みやこどり」より）。小梅小学校の児童たちが横断歩道を渡り集団登下校しています。六十年ほど前の曳舟川通りの様子です。次の写真次次の写真5は右の写真4とほぼ同じ位置から撮影した現在の様子です。沿道の殆どの家屋が建替えられています。道路中央の先にはセトル中之郷ビルなど高層マンションが建てられています。横断歩道の描き方も当時と異なっていますね。

写真4

この様な経緯があり、かって墨田区北部地区の主要幹線道路であった「曳舟川通り」は百年の間に大きな変貌を遂げました。現在は、曳舟駅前地区が京成押上線の高架化と共に再開発され、また曳舟川通りの起点近くの東武「業平橋駅」は「とうきょうスカイツリー駅」に変わりました。

写真5

次号に続く

俳句（寄稿）

前回に続き『俳句』を四句ご紹介します。

❊　挨拶を　教わる男の子　文化の日
電車の仲で席を譲られた男の子

❊　砂利の音　水の光も　小春かな
越谷の能楽堂花田苑

❊　落ち葉舞ふ　荒行堂の石畳
中山の法華経寺

❊　手水舎の　屋根に枯れ葉の
降りつもる
中山の法華経寺の屋根

【編集後記】

日日是好日となれば良いのだが、毎日が忙しく過ぎる。スカイツリーが出来たが、観光地慣れしていないので、戸惑う事ばかりである。将来を考えると不安になるが、せめて地域の関わりを大切にして欲しいものだ。